



**神ノ川乗越～金山谷乗越**  
 神ノ川乗越で一息ついてすぐ登る。きつに登り汗ビショリ。3ヶ所のピークを登り下りながら、先程から大声で「気合をけなから行きた学生パーティの入ったエーシン分岐を過ぎ、大ガレを迂回して下ると金山乗越へ出る。檜洞丸へ最後の登りに備えてパンとカンを食べる。

**白ヶ岳～神ノ川乗越**  
 白ヶ岳からは右に直角に曲る。スズダケの切株の上を、突き刺さらないよう注意しながら急下りする。薄茶色の木肌を挟む樹林帯となり、右側の大ガレを見ると、神ノ川乗越。

(不動ノ峰より蛭ヶ岳間は2/4に記載)

**丹沢山～不動ノ峰**  
 頂上道標に従って左へ直角に下る。変わった造りの古い道標碑を読んでわざと登る。乗越すとツルベ落としと言われる荒れた急坂を足速に下りきると、幕沢源流の早川乗越だ。これがなだらかな草原の斜面を登ると途中左側に不動明王を祀る立派な休憩所の前を通る。更にバイケイソウの斜面を登ると、静かな樹林の不動ノ峰にた

**金山谷乗越～青ヶ岳山荘**  
 金山谷乗越からツツジ咲く尾根の登降を繰り返す。倒木や笹の切株を越え急登を頑張る。ブナ林入口からは、広く大きな斜面になり、道もなだらかとなり、バイケイソウの間をジグザグ切っていく。青ヶ岳山荘が見えたと左へ廻り、頂上から、ただならぬさわめきが伝わってくる。

**蛭ヶ岳～白ヶ岳**  
 蛭ヶ岳からは急峻な尾根の下りだ。激しい急坂を腕がビレビレするほど立木に掴っては制動をしながらの急下降。高低差300Mを25分で本ダレミへ下りきる。ここからスズダケの切株の上をジグザグ切って急登する。時々ツツジが派手に咲いて足止めさせる。両側は灌木とスズダケが密生して風を止め、展望もきかなくなり、暑さをこらえ、黙々と歩くのみ。白ヶ岳の大ガレを左に見ると、白ヶ岳の北端に着く。ブナの茂った大木の下は広場で「腰掛もあり、立派な道標や目印が沢山ある。

**竜ヶ馬場～丹沢山**  
 竜ヶ馬場は広々とした高原状の斜面で、気持ちいい草原上には休憩台が沢山設備してある。つい休憩を誘惑されそうだが、今日の主稜縦走に続く主稜縦走がひかえている身、午前中にピークをあげなければ帰れない。一望してすぐ斜面を登り切って下る。まばらな樹林の間に陽光が指し込んで、春の草花が美しく笑顔をを見せてくれる。木段の急登から続いて登水はもう丹沢山で、大賑合いの状態だ。(みやま山荘へ泊った人の出発時)

**縦走路**  
 尊仏山荘に別水を告げて、小屋の北端から下る。ウグイス・ホトトギス・コマドリを聞きながら、まばらに立つブナやケヤキの間を抜ける。春に満ちたこの縦走路は新緑の輝きが証明しているように、その中の散策は実に楽しい。

**塔ノ岳の朝**  
 朝来迎は2階の窓よりよく見えるので外へ出なかったが、今朝は丁度曇りがたなびいてあまりよくない光景だ。朝陽の登るのを見ながら準備をする。山の朝はさすがに涼しい。冷気が体を引き締め、なんとも言えない良い気持ち。頂上から昨日越えて来た尾根をたどる。絶頂のピークが朝陽を受けて生き生きしているように見える。今日はコストパフォーマンスの暑さの下での大縦走。先ずは第1山の青い丹沢山へ。

5月28日(日)晴  
 幕沢の新しい橋 16:20より走る  
 西丹沢バス停 16:30～16:40発車  
 新松田駅前 17:55着  
 小田原駅発 18:34こだま  
 名古屋駅着 20:42

**檜洞丸～西丹沢バス停**  
 檜洞丸頂上は、200名以上の登山者で大賑合い。今日は12時より山開きで、丁度その行事が終わったあとで、神主さんや、みこさんたちと祠の前で記念写真の連続撮影。頂上でのお祭り気分を味わってから休憩する。残りものをみんな出して腹に詰める。山へ来ると活動力が激しいせいか、よく食べる。地元の人たちも下りかけたので、その後を追って幕原の方向へ、ブナの原生林の間を縫って小走りにドンドン下る。途中(4:30)目も覚めるほどの糸白ツツジに出会って休憩したあと、一気にバス停まで下山する。(その間2時間)

**青ヶ岳山荘～檜洞丸**  
 なんだろうといがかしながら小屋に向う。青ヶ岳山荘へ立ち寄り、小屋の管理人が残念そうな声で、「もう少し早くこればこんなお札が頂上で貰えるのに……」と言って木札に印を押したものを見せてくれた。小屋からブナ林の間を3分登って雑踏の檜洞丸頂上へ着く。立派な展望台と展望はきかぬが、すばらしいなごとの憩いの広場で、みんなはしゃぎながら昼食をとっている。